

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0150480036), 法人名 (医療法人 北武会), 事業所名 (グループホームほくと すずらんユニット), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2-5), 自己評価作成日 (平成26年10月20日), 評価結果市町村受理日 (平成26年12月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同医療法人の北都病院との医療連携、専任看護師によるオンコール対応等、利用者ご家族様にとっては安心頂いています。又ワンフロアに2ユニットがあるため、昼夜共にお互い協力し合っており日々盛んに交流しています。日常のレクリエーションの他に、月に一度講師によるフラワーサークルの開催や、四季折々の行事、又ご家族様を招いての敬老会を催し日々の生活を知っていたく機会を持つなど、張りのある生活が送れるよ工夫しています。毎月、生活状況・行事案内など記載したお便りを発行し、ご家族様・知人等気軽に面会しやすい家庭的な雰囲気作り、いつも笑顔で笑いの絶えないあたたかい生活をモットーに、職員一同心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0150480036-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年12月5日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR手稲駅に近く、近隣には商店や、病院、消防署があり利便性に恵まれている。建物は鉄筋3階建てで、3階の広いワンフロアを2ユニットとして利用しており、隣接して老人福祉施設がある。母体は医療法人で、病院や施設を複数経営し、医療や職員研修で連携をとり、相乗効果がある。医療については、事業所の専任看護師によりいつでも協力医療機関と連絡をとれる体制にあり、受診・相談など個々に対応でき、本人、家族の安心に繋がっている。家族には「ホーム便り」の送付で生活の様子を伝え、アンケート調査を行い、希望を把握するなど親身に対応しており、家族の訪問は多い。管理者及び職員は良好なチームワークのもと、利用者一人ひとりを尊重してサービスを提供し、生活の質の向上と活性化に努めている。地域とは認知症養成講座の開催や、地域イベントへの参加で、双方向での交流がみられる。地域社会の一員として、心豊かに安心して生活が送られるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族、大切な人と交流が図れ、地域社会の一員として生活が送れる暮らし」と理念を有し地域社会の一員としてその人らしく満足した生活が送れるように理念の実践に向け一人ひとりに合ったケアをしています。	事業所独自の理念を作成し、事務所、廊下、職員の名札裏に明記している。管理者及び職員は会議や毎日の申し送りなどで理念を共有し、ケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しホーム便りを回覧して頂き、回覧の中に見学・相談等の受け入れを記載している。手稲区ふれあいフェスティバルに参加し見学者を受け入れている。	「ホーム便り」や「運営推進会議録」を町内へ回覧している。見学者の受け入れ、認知症サポーター養成講座の開催など地域と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを町内会に回覧しホームの日常生活、地域を活用している様子、ボランティアによるサークル活動の実施、また認知症サポーター養成講座を開催し認知症の理解を、地域の方々に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全家族に開催案内を送付し2ヶ月に1回開催している。参加できない家族から意見収集に努め、事業計画・報告、行事報告、外部評価報告を行い議事録は全家族に送付し、町内会に回覧すると共にホーム内に掲示している。	会議は定例に開催し、事業所運営や行事について討議し議事録は家族に送付している。地域包括センター職員、地域代表、家族が参加し討議内容はサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括の職員には、運営推進会議に出席頂き、ご意見アドバイスを頂いている。ふれあいフェスティバルにも参加し、又介護予防センターと共催で認知症サポーター養成講座を開催した。	行政担当課とは通常業務の中で情報交換を行い協力関係を築いている。地域包括センターや介護予防センターとも連携をとりながら協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーター及び玄関施錠は、日勤者退社後防犯のため施錠している。又職員を社会福祉協議会主催の虐待防止研修の中で身体拘束についても学び、伝達研修において職員全員が理解し取り組んでいる。	内外の研修を受け職員の意識の共有をはかり、マニュアルを整備し、身体拘束のないケアを実施している。防犯の為1階玄関は施錠し、玄関の映像は3階事務室に設置したテレビで確認して安全に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会福祉協議会主催の「高齢者虐待防止」研修会に参加している。研修後は伝達研修にて全職員に意識付けを行い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人をつけている方が入居されているので、制度について学ぶ機会もあり、また利用について包括職員や司法書士に相談もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ説明を行い、質問等にも十分な説明を行い同意を得ている。退居による契約解除も、同様に説明と同意・選択に心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、家族様の意見は意見箱を設置している。又口頭による要望などは随時確認し、迅速な対応を行っている。ご家族様にはアンケートをとり意見、要望については検討し回答している。	意見箱を設置し、訪問時の会話や事業所独自のアンケート調査で家族の意見や要望を聴取し、適切に対応している。外部への苦情受付機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時や職員会議など、都度職員の意見や提案を聞き話合っている。	管理者は会議やカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、また、日頃から個々の希望を聞く機会を作っており、職員の意見は運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望・有給休暇の受け入れや、資格取得の奨励として、外部研修は勤務扱いにし、費用も法人が負担して向上心を持てる様にしている。資格に応じた業務内容や昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人合同研修会に参加している。ホーム内研修は年間計画を立て、毎月職員会議で実施しており、外部研修は職員に応じたものを受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市及び手稲区の管理者連絡会議には、必ず出席し情報交換している。又今年度は手稲区の役員でもあり他ホームとのネットワーク作りをしている。事業所間に於いてはホーム主催のサークル活動に参加頂き活動を通じ取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談やご本人によるホーム見学で雰囲気を十分に感じて頂き、不安や困りごと等緩和し利用開始時では、本人に寄り添い心穏やかに過ごせるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の電話相談や納得行くまでホームを見学して頂くと共に、お話を伺い家族の要望等汲み取り、サービス開始時、来訪や電話時でも都度、相談・報告を行い不安を取り除けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居希望であっても、身体状況や生活状況により、他の施設サービスの利用も含めた対応に努め、必要に応じ福祉用具等利用している。又法人の相談員に連携事業所への紹介なども行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを忘れず、人生経験、生活歴などを傾聴しお手伝い頂いている。花や野菜の育て方を教わったり、出身地の郷土料理や裁縫の得意な方からは、洋裁での細かなアドバイスも頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に通院介助などご家族様の協力が必要なことは納得頂いている。又ご家族様との外出や敬老会では一緒にお祝いするなど絆を大切にしている。毎月のお便りでも定期的に行事や身体状況などを伝え、情報を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人、馴染みの方がいつでも気軽に面会や、連絡しやすい環境づくりに努めている。お墓参り等での外泊や外出もご家族様協力の下支援し、又近況報告の葉書や電話等馴染みの関係を継続している。	家族や親しい知人の来訪時には本人と共にゆっくり寛げるように配慮している。家庭への外泊や墓参り、馴染みの店の利用については、家族と共に協力し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や入居者様同士の関係を日頃から把握し、居間や食堂の座る場所を考慮するなど、和やかな関係が築けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設入所や、入院のため退居された方には、その後面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いや希望があることの認識のもと、日々の生活の中で本人の意向を把握する努力をしている。又本人の意向を採り入れ、ケアプランに活かし困難な場合は家族からの情報、生活歴を参考にしている。	日頃の会話や表情から本人の意向を把握している。センター方式での個人記録の活用や、家族情報からも思いを把握し本人の意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、センター方式を活用し本人に聞き取りや、ご家族様の情報をもとに職員間で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりを良く観察し、ご本人の生活パターンやその日の体調に応じた現状を把握し、又入居者様がその日どのように過ごしたか申し送りで情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り本人やご家族様の意向を確認し、カンファレンスを行い計画作成者・看護師や担当職員による、その人に見合った介護計画を作成し説明同意を得ている。	本人、家族の意向を尊重し、担当職員、介護支援専門員を中心に看護師を含む全職員で検討し介護計画を作成している。3カ月毎に見直し、現状に即して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等個別記録に記入し、問題点や改善策が生じた時には、センター方式を活用し計画の見直しに活かし、又個別記録とは別に引継ぎノートや申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設デイサービスのホールを使用した行事や、特養とのサークル活動の実施などサービスの充実、向上を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一度のフラワーサークル、手芸ボランティアの受け入れによる小物作りや、近郊飲食店への外食など楽しみながら豊かな生活が出来るよう支援している。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は本人及び家族等の希望を大切に、納得がえられたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	同法人の病院が協力医療機関でかかりつけ医でもあるため、日常の健康管理や特定健診等を受けている。病院休診日や夜間は専任看護師によるオンコール対応と訪問歯科診療による治療や指導を受けている。	同法人の提携病院への通院支援をしている。専任看護師のオンコール対応で、いつでも連絡可能な医療連携体制を構築している。利用者が希望する医療機関への通院も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム専任の看護師が週2回の勤務の他に、土日・祝日・夜間24時間オンコールとし連絡可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院したときは、情報提供書を提出し入院先の病院関係者と情報交換するよう努めている。又入院後は見舞いに伺い安心して頂けるよう対応し、ご家族様や医師との連携を図り、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者が重度化してきたときは、できるだけ早い時期からご家族様と話し合いを持ち、かかりつけ医師や看護師を中心に方針を共有し、同法人の病院や施設関係者と相談し支援に取り組んでいる。	重度化については、入居時に本人、家族と話し合い意向を確認している。状況が変化した時は医師や看護師、家族と方針を共有し、同法人の提携病院や施設と相談し、事業所として最善を尽くすよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習も受けており、事故発生時における初期対応については職員会議等で看護師の研修を受け、知識と対応を学んでいる。又マニュアルも設置し事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や消火センターの協力を得て昼夜の火災を想定した合同避難訓練を年2回実施している。訓練には町内会にも協力頂き、災害対策マニュアルの緊急連絡網に記載している。又災害備蓄品の整備も行っている。	消防署指導のもと、年2回隣接する老人福祉施設と合同で避難訓練を実施している。地域との協力体制を築き、災害対策マニュアルや連絡網を整備し、備蓄品も用意している。	建物は鉄筋コンクリートで防火扉やスプリンクラーの設置などがあり火災に配慮されている。大雨や地震など他の自然災害についても避難経路など検討する予定なので期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシー保護の研修を行い、個人ファイルは鍵のかかるロッカーに保管している。常に敬意・尊敬の心を持ち言葉掛けや対応をしている。	職員は言動に配慮し利用者の人格を尊重して接遇している。個人情報記載の書類はプライバシーに配慮して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から思いや希望をくみ取るよう努めている。外食やレクリエーションでも本人の意思を尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事の時間、入浴希望など入居者様の意思を優先し、その人らしいペースや生活感を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問美容師が来ている。希望によっては行きつけの美容院にも行っている。又ご自分で選んだ洋服や化粧品などお洒落に関心を持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて食事の下ごしらえや調理、盛り付け等参加頂いている。又季節に合わせた物や誕生会にはご本人の好みを取り入れた献立を提供し、それぞれの嗜好品での外食や出前も楽しんでいる。	利用者は食事の下ごしらえや盛り付けなど、能力に応じて参加している。食前、食後の挨拶を職員と共に行い、職員は利用者が食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を立て、毎日食量・水分量を一人ひとりチェックし記録に残している。日々の状態に合わせた栄養・水分量のバランスが確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。一人ひとりに合わせた見守りや介助を行い、就寝前の義歯の洗浄や口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、リハビリが必要な場合も都度検討し、トイレへの声かけを行い、パットも尿量に合わせた大きさに変えていくなどの対応を行っている。全員トイレで排泄し自立に向けた支援をしている。	排泄記録から個々の排泄パターンを把握し、適時にさりげなく誘導してトイレでの自立排泄を実施している。日中は全員布パンツ使用である。夜間にはポータブルトイレを利用する場合がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便のために食事の工夫や水分摂取量・運動も取り入れている。日々の排便の確認をし下剤の調整、減少に向け対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい気持ちを大切に希望に合わせて楽しんで頂けるようにしている。又午前入浴や失禁・発汗などその時々に応じて入浴を行い清潔を保っている。	週2回以上の入浴を実施しているが、本人の希望や体調、タイミングに合わせて柔軟に対応している。安全と清潔保持に配慮してシャワー浴や清拭も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の軽い休息やソファでの休息が安心という入居者様には安楽な姿勢で休んで頂くなど、一人ひとりの状況に合った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は看護師がしている。月1回の受診時などで服薬の変更があった場合は、職員全員に情報が伝わるよう送りノートに記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味・嗜好・生活歴に合わせたお手伝いやサークル活動への参加、外出や季節毎の行事で日常に変化を持って頂き、気分転換や楽しみを見つけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人希望による買い物や地域のお祭りも個別に対応し、ユニット行事では公園への藤棚散策やショッピングセンターへの買い物及び外食、散歩を兼ね近くのコンビニにも出かけている。又ご家族様との外出も積極的に支援している。	個々の希望に沿い近くのスーパーや喫茶店への外出を支援している。行事として季節ごとの郊外へのドライブ旅行があり、公園や大型店に出かけ生活の活性化に努めている。家族の協力もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様、ご家族様と相談してお金の所持をしている、又買い物レクなどでご本人による金銭の精算も支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話を頂いたり、ご本人様からも届け物などのお礼の電話や近況報告を兼ねた葉書のやり取りで、大切な方との繋がりを大事にできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは常に明るく、飾り付けは季節感を採り入れている。写真や行事報告・お便りなど貼るときは直にとめないよう暖かい雰囲気作りを工夫している。又天気の良い日にはテラスを活用し、共用スペースに椅子やベンチを置き談話としている。	居間はフローリング部分の他、畳スペースもあり家庭的な雰囲気である。利用者の作品を展示し、季節感を採り入れた飾り付けをしている。窓からの眺望に恵まれ、採光や温湿度も適切で、快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを廊下の所々に置き、窓からの景色を眺めながらくつろいで頂いている。こあがりやフロアでお好きなことをしたり、気の合う人と過ごせるよう空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の使い慣れた家具や、思い出の品・写真等ご家族様に協力頂き、居心地の良い環境作りをしている。又お位牌のある方はお持ち頂き、毎朝お供えお参りしている。	居室は広く、大きなクローゼットがあり整頓されている。馴染みの家具を持ち込み、家族の写真を飾るなど本人の希望に沿って居心地の良いように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行ができるよう手摺を設置し、一休みもできるような椅子も置いている。又長い廊下や階段を活用し歩行訓練を行い、身体機能の維持に努めている。		